

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価 (3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	柔軟な学びのシステムを活かした教育課程の編成を推進する。 生徒が主体的に学び、学力の定着が図れるような授業を実現するための研究を推進する。	① Semester制の導入に向けた諸課題の整備と調整を行う。 ② 生徒の主体的な学習を促す授業の研究を行う。	① Semester制を導入し、運用する際の課題を洗い出す。 ② 「清南型アクティブラーニング」を実践し、その研究協議の結果を共有する。 ・教科指導でのICT利活用を推進し、積極的に授業改善に取り組む。	① Semester制を導入する前提で、課題を整理できたか。 ② 各教科で「清南型アクティブラーニング」に関わる授業実践を行い、研究協議の結果を共有できたか。 ・各教科内で連携・協力を図りながら、教科指導でのICT利活用に取り組むことができたか。	① 現在、後期に開講している講座を前期に開講することで、半期卒業が増える利点がある。 ② 研究協議、授業互換、教科内研修会を実施した。 ・昨年度に続き教科指導でのICT利活用に取り組むことができた。文科省推進事業では、授業者全員が取組める体制を推進し、「授業のちょっと×2ポータル」の充実を図った。 ICT環境整備が進んだことで、「わかる・できる」授業に繋がっている。	① 教科の系統性により、前期講座と後期講座の同時履修は困難である。また、対象者数が不安定である。 ・丁寧な指導により年度内の履修登録者が大幅に増えた。オーバーフローする科目もあり、履修登録の在り方を検討する必要がある。 ② 「清南型アクティブラーニング」実践への共通認識が低く、授業評価アンケートでも該当する項目での評価が昨年度より低かった。来年度は「清南型アクティブラーニング」を教員に強く呼びかけることから始めることが大切である。 ・ICTの利活用については来年度異動してくる教員に利活用を促しながら、これまで通り利活用していく。 ・ICT機器を利活用した授業例を教員間で共有し、授業改善に取り組む。	① より丁寧な履修指導が求められている。 ① 半期認定はすでに導入しているが、後期科目の前期開講等が課題となる。 ② 研究協議、授業互換、教科内研修会を実施できた。 ・昨年度に続き教科指導でのICT利活用に取り組むことができた。また、文科省推進事業では授業のノウハウを共有し、授業者が取組める体制を推進するために、「授業のちょっと×2ポータル」の充実を図った。 ・ICT環境整備が進んだことで、気軽に利活用できる体制が整い、視覚に訴える授業を実現し、「わかる・できる」授業に繋がっている。	① 履修指導は登録システムの見直しと同時に将来を見据えた指導を原則とし、安易に目先の興味に引きずられないようにする必要はある。 ② 「清南型アクティブラーニング」実践への共通認識が低く、授業評価アンケートでも該当する項目での評価が昨年度より低かった。来年度は「清南型アクティブラーニング」を教員に強く呼びかけることから始めることが大切である。 ・ICTの利活用については来年度異動してくる教員に利活用を促しながら、これまで通り利活用していく必要がある。 ・ICT機器を利活用した授業例を教員間で共有し、授業改善に取り組む。	
2 生徒指導・支援	多様な課題を抱える生徒に対応するため指導、支援体制の充実を図る。 学校行事を通して生徒の自己肯定感の向上を図る。	① 外部の機関や人材と連携し、積極的に活用する。 ・マナーアップを推進し、コミュニケーション能力を育成する。 ② 生徒が主体的に活動する環境づくりを進め、自己肯定感を向上させる。	① 教育相談体制を整え機能させることで、SC、SSWや外部機関と積極的に連携した生徒の支援・指導を行う。 ・教職員が積極的に挨拶や声かけをする。 ・生徒の実態を踏まえた、情報モラル教育を組織的かつ統一的に推進する。 ② 生徒会活動や部活動を通じて生徒の主体的な活動の場を増やす。	① 教育相談体制の中でケース会議等を開催し、外部機関と連携した生徒への支援・指導ができたか。 ・情報モラル教育を通して、ルール・マナーの理解を図ることができたか。 ② 生徒会活動や部活動を通じて生徒の自己肯定感の向上を図ることができたか。	① 教育相談体制を整え、各年次に教育相談の担当者を配置した。 ・必要に応じてケース会議を行い、教職員で情報を共有するとともに、外部機関への相談を勧めた。 ・生徒指導に関わる案件の中で、指導の一環としてSCや外部機関へ相談を勧めることもした。 ・ルール・マナーはあらゆる機会を通じて日常的に指導を行った。 ・生徒の実態や今日の課題を踏まえ、レクリエーション形式の情報モラル教室を新たに実施した。 ② 月1回のあいさつ運動では役員全員で行うことができた。 部活動では、各部で熱心に行い、様々な成果を上げることができた。	① 外部機関への相談は、学校が保護者・生徒に勧めても、最終的に保護者が動いてくれない。生徒にSCへの相談を勧めても、生徒が約束の時間に来ない。 ・保護者・生徒の自尊心を傷つけないよう配慮しながら、相談の必要性を理解させ、繋げることが課題である。 ・学校生活のルール・マナーは、保護者の協力を得ながら粘り強く指導していく。 ・レクリエーションの種類や情報モラルの問題を改変し、生徒が情報モラルについてより意欲的に学べるようにする。 ② 文化祭やスポーツ大会で企画、運営に主体的に関われるような組織としていきたい。	① 多様な学習支援により、外部とのつながりもたくさんできてきている。より有効に活用してもらいたい。 ① 教育相談体制を整え、各年次に相談担当者を配置した。相談担当者が窓口となりケース会議を実施した。相談場面だけでなく、生徒指導場面でも外部機関を紹介することができた。 ・ルール、マナーはあらゆる機会を通じ日常的に指導を行った。 ・生徒の実態や今日の課題を踏まえ、レクリエーション形式の情報モラル教室を新たに実施することができた。 ② 生徒会活動では、月に1回のあいさつ運動を生徒が主体的に行うなど学校の活性化につながった。また、部活動でも例年のない実績を上げることができた。	① 外部機関等への相談を勧めても、生徒・保護者が必要性を理解できず繋がらないケースがあった。教員が日ごろから生徒・保護者と対話を重ね、信頼関係を築いておくことが必要と思われる。 ・ルール・マナーは保護者の協力を得ながら粘り強く指導していくことが大切である。 ・レクリエーションの種類や情報モラルの問題を改変し、生徒が情報モラルについてより意欲的に学べるようにする。 ② 文化祭やスポーツ大会の大きな行事への生徒会の関わりを工夫していきたい。また、部活動では生徒の加入率を上げていく手立てが必要と思われる。	

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	生徒一人ひとりが将来性、計画性を踏まえて自己実現ができる進路指導の充実を図る。	①キャリアサポート体制を拡充する。 ・「生きる力」を育む。	①進路個別相談やチューター、SSW、サポートステーション相談員、学習サポート員との連携活用を図る。 ・多様なニーズ対応に向け地域連携を広め、インターンシップ等の体験や見学の機会を増やす。「総合的な学習の時間」でのキャリアノートや外部教育力を活用する。	①進路希望の実現に向けての進路相談やチューター等を活用することができたか。 ・体験や見学の参加状況や外部教育力を活用することができたか。	①学習サポート員、若者サポートステーション、NPOなどと連携をすることができた。 ・総合的な学習の時間のスタイルが確立され、外部との連携も進んだ。	①連携にはまだ単発的などところがあり、今後、グループ全体、課程全体での体制を確立し、情報共有を必要がある。 ・学習内容が充実してきたが、生徒の参加率についてはさらに向上させる必要がある。	①進学状況をみると、進学者数が減少している。	①進路調査を定期的に実施し、担任等との進路相談の活性化が図れた。 ・ハローワーク等外部と連携し、生徒の多様なニーズに対応できた。 ・キャリアノートを活用して自分自身について主体的体験的に進路について深く考えることができた。	①進路決定において自己PRできる経験やスキル等を増やすことや、インターンシップやボランティア等の機会を多く設けることが必要である。 ・生徒一人ひとりの特性に合った進路実現に向けた支援にさらに工夫が必要である。
4 地域等との協働	地域に理解され、信頼される活動を推進する。	①地域の学校等と連携するなど、地域貢献活動に積極的に取り組む。 ・日々の教育活動について、より丁寧な情報発信を行う。 ・地域の防災活動について協働を図る。	①学校行事として、学年単位や生徒会主催でより多くの機会を捉えて活動できるようにする。 ・日々の教育活動等をホームページを通じて積極的に情報発信するとともに、学校説明会等の充実を図る。 ・地域と連携した防災訓練、自主防災組織等との情報共有などの取り組みを行う。	①年間を通して、地域に貢献できる体制をとることができたか。 ・ホームページや学校説明会等の工夫・改善が図ることができたか。 ・防災訓練や情報共有ができたか。	①連携活動として地域清掃活動を年間2回行った。 ・ホームページ等を通じて、日々の教育活動を積極的に情報発信することで、例年並みの学校説明会の来場者数であった。 ・地域と連携した防災訓練は実施できなかった。	①地域の方にアピールできるように開催していくとともに、日頃から地域をきれいにしようとする態度を養っていく必要がある。 引き続きホームページ等を通じて情報発信を行い、生徒・保護者に本校の教育活動について理解してもらう。 ・地域との情報共有と防災訓練で定期的に打ち合わせをもつ必要がある。	①地域住民にとっては、ホームページよりも回覧板を利用して学校からの連絡やPRしてもらった方がよい。	①ホームページ等を通じて、日々の教育活動を積極的に情報発信することで、例年並みの学校説明会の来場者数であった。 ・地域と連携した防災訓練などを実施することができなかった。	①引き続きホームページ等を通じて情報発信を行い、生徒・保護者に本校の教育活動について理解してもらう必要がある。 ・まず近隣地域の防災組織等と情報交換から始め、情報共有をする。
5 学校管理 学校運営	安全・安心な学校づくりのために三課程が連携して教育活動を展開する。 フレキシブルスクールとして三課程の情報共有を推進する。	①学校運営マニュアル等を作成し、内容の周知を図る。 ・三課程で実施する防災訓練を定着させる。 ②ICT機器の利活用により、学校運営の円滑化をさらに推進する。	①学校運営についての実施目標を定め、三課程で連携しやすい実施計画を策定する。 ・実施目標を定め、三課程で実施要項を作成し、防災訓練を実施する。 ②校内ポータルサイトを通じて教育の情報化を推進し、職員のセキュリティ意識を高めるとともに、課程間の情報共有を円滑に進める体制を整える。また、生徒・保護者への連絡手段として、携帯メールシステム「お知らせメール」やTwitterによる積極的な情報発信を推進する。	①実施計画に基づき連携のとれた学校運営ができたか。 ・実施要項を作成し、三課程で防災訓練が実施できたか。 ②情報セキュリティに関する教職員それぞれの意識を高めることができたか。また、「お知らせメール」の登録件数が増加し、効果的に情報発信ができたか。	①三課程の避難訓練は、しっかり連携をして実施することができた。また、生徒主体の訓練を実施した。 ②校内ポータルサイトの運用から6年が経ち、活用状況が格段に向上し、情報共有の要となっている。また、定時制情報管理Gが中心となり、ICT環境整備(N棟プロジェクト等)を進めた。 ・「お知らせメール」や「Twitter」による情報発信を行った。	①授業確保の観点から、訓練の複数回実施は難しい。文化祭等の学校行事での実施も考える必要がある。 ②今後は効果的な校内の情報共有のカタチを追求していく。 ・N棟のみでなく、S棟のICT環境整備の検討を他課程と協力しながら進めていく。また、実際にICTを利活用している教員の要望を聞き、普通教室に反映していく。 「お知らせメール」の登録者数が少ないため、生徒・保護者に対して周知徹底が必要である。	①厚木市の防災の管轄において、厚木清南高校はどこに所属するのか明確化されていない。市と連携しながら、避難所としての役割を担ってほしい。	①三課程合同の防災訓練を実施することができた。 ②校内ポータルサイトの運用から6年が経ち、活用状況が格段に向上し、情報共有の要となっている。また、定時制情報管理Gが中心となり、ICT環境整備(N棟プロジェクト等)を進めることができた。	①引き続き三課程で連携しやすい実施目標、実施計画を策定し、合同防災訓練を実施する。 ②今後は効果的な校内の情報共有のカタチを追求していく必要がある。 ・N棟のみでなく、S棟のICT環境整備の検討を他課程と協力しながら進めていくとともに、実際にICTを利活用している教員の要望を聞き、普通教室に反映していく必要がある。